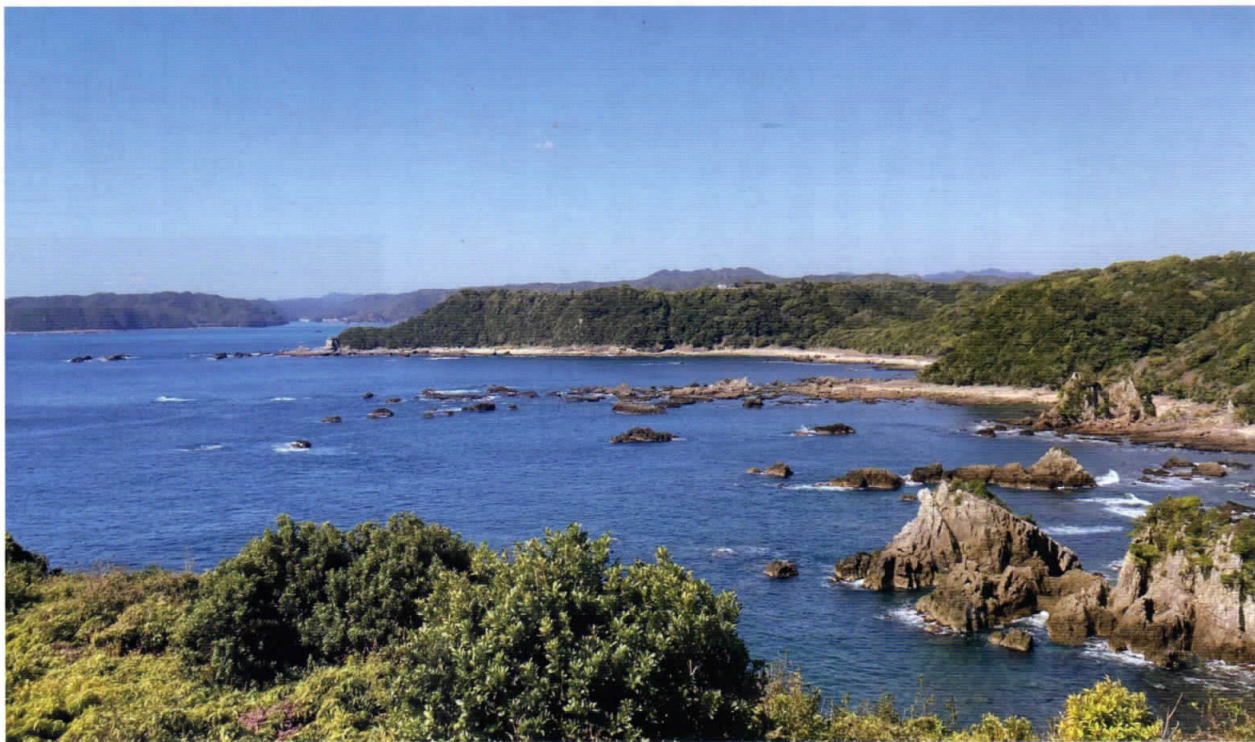




今月の読み物	◇2～3面	震災から13年後の福島
	◇4～5面	くしもと9条の会へ講演旅行
	◇6面	食料自給率引上げ運動は平和への道
	◇7面	世界の文化人 沖縄基地建設反対声明
	◇8面	会議・行事のお知らせ、川柳

〒540-0004 大阪市中央区玉造 1-6-11 黒石ビル3F  
2024年 4月1日 No. 614



太地町平見台園地からの熊野灘

# 憲法9条の精神とASEAN

## 串本9条の会総会で堀内さんが講演

和歌山県の最南端の潮岬はよく知られています。その潮岬の付け根にある町、串本町の「くしもと9条の会」総会の記念講演に大阪AALAの会員で日本AALAの事務局次長でもある堀内さんが「憲法9条とASEAN諸国の平和の動き」のテーマで講演をしました。

くしもと9条の会は「憲法9条を守り、いかす」ことを目的に、地域に根ざした幅広い活動を続けている会です。

戦争の心配のない日本にしていくために、日本を含む東アジアを平和と協力の地域にしていこうと

の取り組みは、AALAの活動とも共有できるものです。私たち事務局員は、串本の人たちにAALAの活動を知ってもらい、AALAをつくるきっかけになってくれればいいとの思いで堀内さんに同行し、一泊二日の「串本9条の会講演旅行」に行ってきました。



(旅行記は4～5ページに)

# 震災から13年後 の福島

尾川 理江

東日本大震災から13年。3・11を目前にした3月8日(金)〜9日(土)、「福島原発とその周辺FAM(視察)ツアー」に参加しました。



## 初めて実物を目にした 福島第一原発

このツアーは、震災当時、福島県のエネルギー課長をされていた佐々木秀三さんが、旅行社社員を対象に企画したツアーです。自ら被災者でもある佐々木さんは、退職後、職場でのつながりを活かし外国の方に被災地域の案内をされていますが、日本人にも福島の現実を見てもらいたい、そして上っ面でない部分まで丁寧に説明したいとの思いからこのツアーを企画されました。

参加者は関西の旅行関係者7名。佐々木さんはドライバー兼ガイドとして、地元の方ならではのコーディネートで、きめ細かな案内をして下さいました。見聞した一部を紹介します。

震災後、私は旅行添乗員として何度か福島を訪れています。第一原発は立ち入り関係団体だけに限られていたため、いつも遠くから望むか、前を通り過ぎるのみでした。昨年夏、東京電力は一般見学の受け入れを開始、私にとって初めての見学となりました。

現在は日曜以外毎日見学ツアーがあり、1日にバス6台くらいの方が訪れているとのことでした。私たちが参加した回は総勢40人ほど、大学院生の団体、山梨県の企業団体関係

のグループと同行でした。見学は事前登録制で、入場には写真がついた証明書が必携、厳重な人数管理の柵が幾重にも設けられていました。線量計や線量計を入れるポケット付きのジャケット、メモ帳、ペンが配布され、私物を置いて専用バスに乗車、構内を約1時間30分かけて見学しました(写真撮影は禁止でした)。

構内をバスで15分ほど走り、1号機〜4号機の目の前で降車しました。テレビで上空からの映像はよく目にしますが、ここでは見学台が陸側の少し高い位置に設置されていて、海に向かって4基を少し見下ろすかっこうです。廃炉を目標に、今は燃料デブリを取り出すための装置を固定する構造物を建設中という説明でした。

跡が生々しく残っています。4基のすぐ向こうに青い海が見えました。海岸まで100〜200mくらいのことでしたが、こんな海すれすれに建っていたんだ、というのが正直な感想です。建物の底面は海拔10m。この高さをやすやす乗り越えて津波が流れ込んだのでした。

大地震や大津波の可能性が何度も指摘されていたにもかかわらず、警告が無視されてきたことが残念でなりません。



## ALPS処理水

バスは巨大なALPS(多核種除去設備)と保管タンクの間を進んで「グリーンテック

キ」と呼ばれる2つ目の見学台につきました。ここは昨年8月から放出が始まったALPS処理水の放出口が見える箇所でした。

「処理水」放出に対する厳しい世論を意識してのものでしよう、説明はALPSで取り除くことができ、ほとんど無害であること、この放出水がいかにか大量の海で希釈されて少量ずつながされるかということが強調されていました。

スタッフはみな真摯で親切でした。最後に記念撮影をして現場をあとにしました。



中間貯蔵施設の光景

双葉旅館と  
俺たちの伝承館



のだ」と地図を示しながら宿のご主人が話してくれました。「東電は廃炉にする技術もないのに、やめよう」としない。みんなが無責任」とも。

小高地区は震災前の人口約1万3千人、現在居住している人は4千人足らずです。旅館の周りには空地が目立ち寂しい風景です。ご主人の言葉の中に、相馬藩

の時代も含めこの土地で綿々と続いてきた人の営みが原発事故で一旦断ち切れてしまった無念の思いを感じました。

双葉旅館のそばに「俺たちの伝承館」があります。

写真家や美術家が寄付で作った小さな手作り美術館です。アーティストの作品で原発事故の伝承を試みた「もやい展」をきっかけに昨年夏オープンしました。

双葉旅館の方も開館に尽力されたそうです。倉庫を改造した館内には写真、造形物、絵画…様々な作品が

「原発の被災地は相馬藩の中にすっぽり入っている

展示されています。パンフ

レットには「次々と押し寄せて来る『復興』という名イメージの大波に向かって（中略）『過去の検証』という強固なる竜骨貫く小舟にのって果敢にも、いざ、出帆します。」と開館の辞があります。館長の中筋さんは「若い人にぜひ来てもらいたい」と語っておられました。

原発事故の原因と責任を  
あいまいにしてほしくない

ここ数年、福島県には3・11を伝承する資料館が次々と開設されました。

また、それに併せて福島之光と影を体感しようというホープツーリズムが推進されているようです。被災地に人が戻り、新しい交流が生まれることは本当に嬉しいことです。しかし復興の名の下で原発事故の責任の追及がないがしろにされるのは許し難いです。

私の学生時代にチエルノ

ブイリ原発事故が起こりました。その時から一度事故が起こったら甚大な被害を及ぼす原子力発電には反対との思いがありました。福島で事故が起こった時には本当に悲しかったのです。

2日しか滞在していなかったのに、何がわかるわけではありませんが、福島では今、原発事故を覆い隠すかのような「復興へ復興へ」の大きな流れと、自分たちの身に起こったことをまだまだ見つめ直したいという人々の思いがぶつかり合っているように感じました。

百間は一見に如かず。もし、3・11がもう遠い出来事になっている方がおられたら、ぜひ福島を訪ねてみて下さい。

〈見学地一覧〉

- ・ 廃炉資料館・第一原子力発電所・東日本大震災原子力災害伝承館
- ・ 俺たちの伝承館・吉沢牧場・大堀相馬焼の里・メガソーラ
- ・ 震災遺構請戸小学校
- ・ 事故当時第1原発の当直長だった伊沢都夫氏と懇談
- ・ 津波と原発事故の教訓を伝える木村紀夫氏の案内で中間貯蔵施設見学
- ・ 大熊町の新しい町



俺たちの伝承館



東日本大震災原子力災害伝承館



震災遺構請戸小学校

憲法の精神とASEANを語る旅

南紀・串本 講演旅行の報告

好きなのは憲法9条

3月17日朝8時に天王寺駅前、白いワンボックスカーに乗り込んで出発しました。途中泉府中駅で今回の講師堀内さんに乗ってもらい、5人で串本をめざしました。

天気予報は午後から雨。私たちは雨が降る前に串本の町に着き、昼食後に会場である串本町文化センターに入りました。



会場入り口では串本9条の会の上柳さんが笑顔で迎えてくれ、総会の会場へと案内してくれました。会場には「好きなのは憲法9条です」と書かれたタペストリーが目飛び込んで来ました。会員さんたちが心を込めて縫い合わせて作り上げた力作でした。

総会の挨拶とオープニングの音楽演奏のあと堀内さんが紹介され、講演が始まりました。

ASEANと平和を語る

30名くらいの参加者を前に堀内さんは、くしもと9条の会にふさわしく日本国憲法前文のことから話を始めました。「平和を愛す



署名提出を語る堀内さん

る諸国民の公正と信義に信頼して・・・と続き、ASEANの世界に話は展開していきました。パワーポイントを使い、画像を示しながらASEANの活動や私たちALAとの結びつきなどをわかりやすく説明されました。

そして、「やらに詳しく知りたい方はぜひこれをお読みください」と日本ALAのASEANブックレットの宣伝もしっかり行ったところはさすがです。



大阪ALAの機関紙を紹介

和歌山にもALAを

そのあと参加者からの質問などがありました。堀内さんは6名からの質問に丁寧に答えていました。

そして、戦争のない非同盟の世界を展望しているALAの組織を和歌山でも



ぜひ作っていただきたいの希望も語っていました。講演の最後には、小松事務局長からも、串本をはじめ和歌山県にALAを結成しようとなった場合は大阪ALAも応援させてもらうとの熱い思いも伝えて、講演での締めくくりの挨拶をしました。

太地の宿で鯨料理

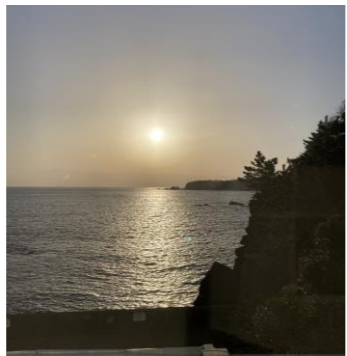
くしもと9条の会での講演が終わった時はすでに本降りの雨になっていました。私たちは上柳さんに見送ってもらい会場を後にしました。

太地町の宿に向かう途中、雨にかすむ橋杭岩が見えましたが、なかなか幻想的でした。

太地町の宿には予定より早めに着いたので、ゆつくりと温泉に入ることができました。源泉の温度が低いからなのか少しぬるめの温泉です。

宿での夕食は鯨料理のフルコース。ベーコンから尾の身、はりはり鍋に竜田揚げと普段はなかなか食べられない鯨料理に満腹になりました。

翌日は前日とはうって変わって快晴。目の前の海に昇る朝日に海面が光って輝き、心がうきうきする朝でした。



太平洋から昇る朝日



夕食は鯨三昧



熊野灘を望む

朝食を済ませて宿を出発。

最初に向かったのは太地町の東にある半島の平見台園地の展望台です。熊野灘を望む南紀の海、青い海と波の音が洋々たる太平洋を感じさせてくれました。

その後、昨日は雨にけぶる橋杭岩でしたが、本日は青空に生える橋杭岩に行きました。そこは道の駅になっていて、橋杭岩を眺めるというよりは、お土産のための橋杭岩でした。



トルコ船遭難事故と慰霊碑

前日、串本の講演会場から白いループ橋が見えていました。どこへ行く橋かと気になっていましたが、紀伊大島へ行く橋でした。私たちは潮岬にはいかず、紀伊大島のトルコ船遭難事故の慰霊碑や資料館に向かいました。

1890年天皇に謁見したトルコ国のエルトゥールル号が台風のため大島付近で沈没し、村の人々の献身的な救助で69人が助かりましたが、600人近くが亡くなったという痛ましい事故がありました。



トルコ記念館



トルコ船遭難慰霊

この出来事はトルコではよく知られていて、トルコが親日国である要因のひとつでもあるようです。慰霊碑は立派なもので、訪れる人も多いようです。

慰霊碑の近くにはトルコ絨毯売の店があり、トルコ人と思われるかなりクセのある店主の話に乗せられて時間を費やしてしまいました。

遅い昼食は串本駅近くの「カツオのお茶漬け」になりました。ネットでは評判の店のようですが、月曜日の昼をかなり過ぎた時刻であったこともあり、空いていてゆつくりと食べることができました。ポリウームのあるおいしいカツオ茶漬けに満腹になって、帰阪の途に就きました。

(報告 西野敏恵)

一泊二日の串本9条の講演旅行でしたが、ASEANの話を通じて平和の取り組みやALAを知ってもらうことができました。これを機会に和歌山県にALAをつくらうという動きが起きればうれしいなと思います。 今回の講演旅行は、費用はすべて手弁当です。それどころか講師の堀内さんからも謝礼を旅費として寄付してもらい、感謝に耐えません。 安心して活動できるように健全財政を取り戻すことは喫緊の課題です。今後とも、みなさんのご協力をお願いいたします。

# 食料自給率引き上げの運動 は平和への道

山崎万里

「家庭栄養研究会」顧問（月間『食べもの通信』編集）で「NSI／農・食・医はつながるプラットフォーム」管理人の山崎万里さんは、大阪AALAの会員でもありません。政府が食糧自給率の向上を放棄してしまっただかのような悲惨な状況になっていることに大きな危機感をもっています。なぜこんなことになっているのか、山崎さんに寄稿してもらいました。

## 食料自給率の向上 を政府の法的義務 とすべき

現在開かれている通常国会に提出されている「新農業基本法（食料・農業・農村基本法改定案）」は食料自給率向上を政府の義務でもなく、「食料有事法案（食料供給困難事態対策法案）」は強制制作付け

や流通統制、配給制度を罰則付きで定めようとしています。これらが空前の軍事予算の増額と抱き合わせて提出されている事はご存じの通りです。現在、農民連を中心に、食料自給率目標の決定、検証を国会で審議し、政府の法的義務とすることを、「農政の憲法」といわれる農業基本法に名文化する請願署名



山崎 万里さん

活動を展開しています。

## 日米安保条約が根底に

なぜ、日本の食料と農業がこのような事態に直面しているのでしょうか？

私はこの半世紀、安全な食料を提携産直する活動と月刊『食べもの通信』で学び情報発信する活動に関わってきました。そして、TPP（環太平洋パートナーシップ協定）の学習の中で、減反政策など日本の農業が切り崩されているのは、日米安保条約の第2条（前略）政治、経済、社会の各分野において同

じ自由主義の立場から緊密に連絡していくことを確認したものである。」の具体化だと気づきました。そして、農業基本法の改悪は日米軍事・経済同盟への日本の従属の完結であり、憲法の上に日米安保条約・地位協定がある沖縄県はそれを前倒して戦いの先頭に立ってくれているのだと思います。



以上が、私の食と健康要求実践50年の「経験上の実感」です。

そこで、農民連の長谷川敏夫会長の言葉を伝達します。

・平和でなければ、農業経営は守れない。農業は平和憲法を支える仕事

## 4月 AALA カフェのお知らせ

### ラテンアメリカの変革 ～ 今とこれから

日本にはなかなか伝わってこないラテンアメリカ情勢。今や多くの国は、新自由主義や開発主義から脱して人民中心の国へと変わろうとしているのです。そんな話を聞いてみませんか。

日時 4月14日（日）13時30分から  
場所 大阪AALA事務所  
講師 一井 不二夫さん ラテンアメリカ政治経済研究会・京都AALA会員

- ・日本の食料自給率38%は「恐怖と欠乏」との同居＝平和的生存権の侵害・農業は、憲法13条「生命・自由・幸福追求の権利」の基盤をなす営み
- ・農業なくしては、25条「健康で文化的な最低限度の生活を営む権利」も成立しない
- ・自給率引き上げの運動は、平和への道

## 国際的研究者、ジャーナリスト、平和活動家、アーティスト 沖縄の新海兵隊基地建設をやめよと要求

この声明文は「英語で世界を読む会」で日本語に翻訳したものです。2023年に出されたものです。今年の1月、辺野古の海を埋めたての許可を県に代わって国が代執行することを認めるといふとんでもない不当判決が出た日の翌日のニュースでは、この声明文に賛同する世界中の文化人が、オリバー・ストーン映画監督や歴史学者テッサ・モリス・スズキを含め、400名を超えたということが報告されていました。



### ジョー・バイデン大統領とアメリカ合衆国の市民へ 岸田文雄首相と日本の市民へ

10年前、言語学者のノームチョムスキーや元アメリカ軍大佐で外交官であったアン・ライト氏らの103人の国際的学者、ジャーナリスト、アーティストや平和活動家が、沖縄北部辺野古岬に新たな海兵隊の基地の建設に反対して声明を出しました。しかし今もなお、アメリカ政府と日本政府は大変コストの高い埋め立てプロジェクトに固執し、沖縄の大多数の人々の反対に会いながらも、無謀にもかけがえのない生態系を傷つけています。

残念ながら総面積の4分の1に当たる埋め立て予定地の辺野古側はほとんど完成しています。今や北側の深くて貴重な多様性を持つ大浦湾の埋め立てに着手しようとしているのです。辺野古に基地を建設するという計画は1960年代から(製図版の上に)有りました。この計画が1996年の日米協定(SACO)で普天間アメリカ海兵隊空軍基地の代替施設として蘇ったのです。周知のとおり、普天間基地は危険な人口密集地の宜野湾市の真ただ中に位置しています。四半世紀以上たっているのに日米両政府は宜野湾の市民の土地である普天間基地を彼らに帰していませんし、辺野古新基地が作られた後も両方の基地をアメリカは維持しようとしているとの報道さえあります。

沖縄の自決権、民主主義及び自治権を擁護するこの申し立てにサインした我々は、第二次世界大戦終結以来、事実上の日米の軍事的植民地となっている沖縄の、更なる軍事化を拒否する沖縄の人々を支持することをここに改めて表明します。

沖縄は元々独立した琉球王国でありましたが、300年続いた江戸幕府による支配に続いて1879年大日本帝国(明治政府)に強制的に併合されました。琉球列島の人々は、強権的なやり方で日本に同化され、言語や名前、伝統を奪われ、主権や自治を持つ民族としての尊厳を奪われました。これは西欧の帝国主義諸国に植民地化された世界中の先住民たちとまったく同様であります。

アジア太平洋戦争の終末に向かって、日本は沖縄を「捨て石」として使い“天皇の地(皇土)”を守ろうとして沖

縄の地で戦闘を続け、沖縄全島の全住民を動員しました。日米の戦闘で12万人以上の沖縄住民を死亡させました、この数は沖縄の全人口の4分の1を超えるものであります。米軍は戦争の戦利品として沖縄諸島の支配権を得ました、そしてほとんど80年後の現在も沖縄の土地も空も海も占領し、レイプや殺人、極めて危険な飛行機事故や自動車事故、PFAS汚染水のような環境悪化など、けた外れの人権侵害を引き起こしています。

2023年12月20日、福岡高等裁判所的那覇支所は沖縄県に対し「マヨネーズのような」柔らかい海洋底に対する政府の建設工法の変更を認めるように命令しました。この工法は費用が高つく、長引くであろうし、新基地の大浦湾の埋め立てを可能にする土地強化は「(専門家によれば)不可能である」とされています。

辺野古基地反対を掲げて、2018年と2022年の知事選挙に勝利した玉城デニー知事は12月25日の判決を拒否し、12月27日最高裁に上告しました。

12月28日、日本政府は沖縄県の代わりに(工法)変更を承認し、1999年に改訂された地方自治法の下で、異例の初めての「代執行」を行うことを認めました。

要するに、裁判所は、事実上国がその法律(地方自治法)を自分の手中に取り入れ、地方自治体の自治権を踏みにじることを許したのです。日本政府は2024年1月24日大浦湾の埋め立て工事を始めることになるでしょう。これは植民地的無関心です。沖縄以外の日本は気にも留めない、そしてアメリカ市民の大部分の人たちは自分たちの政府が沖縄で何をしているか気づいていないのです。

バイデン大統領、岸田首相、そして米国と日本の市民の皆さん、私たちは沖縄に対する差別と軍事的植民地化を終わらせなければなりません。その為の最初の一步は大浦湾の辺野古新基地建設を中止することです。これは65億ドルの費用がかかり、完成まで10年以上かかると予想されているのです。

いまこそ正しいことを行う時なのです。

大阪AALAも連帯して  
このスタンディング行動に  
参加します。



# 4・19アメリカ領事館前 スタンディング行動！

## ガザ地区への無差別攻撃ストップ！

## パレスチナに平和を！

## アメリカはイスラエルへの 支援をやめろ！

日時 4月19日(金) 12:00~  
場所 アメリカ領事館前

プラカードなど市民にアピールできるものをお持ちく  
ださい。

呼びかけ団体 大阪平和委員会 大阪原水協 大阪革新懇 大阪労連  
問合せは 大阪平和委員会 06-6765-2840

理事会・常任理事会  
のお知らせ

- 第9回常任理事会  
5月15日(水)  
14時~
- 第4回理事会  
4月10日(水)  
14時~

### 「英語で世界を読む会」の ご案内

4月の例会は 4月23日(火)  
午後 2:00 ~ 4:00  
場所は AALA 事務所  
(JR 玉造駅近く)

テキストは “The Great Rupture in  
American Jewish Life” (The New  
York Times、3月22日オピニオン欄の  
記事です) アメリカに住むユダヤ系  
の人々が、ガザ攻撃を即刻停止せよと言っ  
ています。

参加希望の方、お知らせいただければ、  
テキストをお送りします。

連絡先: 安井 Tel: 079-78-5915  
Mail: [pichan5@hotmail.com](mailto:pichan5@hotmail.com) )

万博に辿り着けない来場者  
三万人超飢えと虐殺ガザの死者  
バブル期を超えて株価は最高値  
貧者には自然災害ひどく寄せ  
自民党裏金回せ能登震災  
プーチンは帝国日本から学び

四條畷市 西川 ひろし

大阪市旭区 近藤 正

川柳



### 大阪AALA へのお誘い

会費 月 800 円(年 9,600 円) (25 才以下は年 3,000 円) ※入会金 500 円  
\* 会費の会計年度は毎年 4 月から翌年の 3 月です。半期毎に 4,800 円ずつご入金をお願いします。  
\* 会費の中には機関紙代も含まれています。月初めに大阪 AALA と日本 AALA の機関紙を郵送いたします。



発行

大阪アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会 (大阪AALA)

Osaka Asia Africa Latin America Solidarity Committee

〒540-0004 大阪市中央区玉造1-6-11 黒石ビル3F

TEL 06-6768-5360 FAX 06-6768-5361

E-mail: [osakaaala@nifty.com](mailto:osakaaala@nifty.com) HP: <http://osakaaala.la.coocan.jp/>

機関紙・宣伝委員会

